

宮城県知事 村井嘉浩様

歴史を歪めて女川原発を「震災に耐えた原発」と美化して国際社会を誤導しないよう、  
国連・世界防災会議のスタディツアー企画の再検討を求める要請書

2015年3月6日

3月14日から18日まで仙台市で開催される国連・世界防災会議で、スタディツアー（被災地公式視察）の企画のひとつとして、参加者を東北電力・女川原子力発電所（以下、女川原発と表記）に案内する「千年に一度の町づくり～歴史に学んだ女川原発の安全対策～」が予定されています。これは宮城県の経済商工観光部が企画したもので、案内は東北電力が担当する予定です。

女川原発は、東日本大震災の際に大地震と大津波で被災しながら、かろうじて重大事故を回避できましたが、国会事故調は「幸運によるもの」（報告書P177）にすぎなかったと報告しています。ところが東北電力は、女川原発の歴史と震災当時の事象の評価を歪めて「震災に耐えた原発」と美化するキャンペーンをさまざまに繰り返しています。国連・世界防災会議の場で誤った情報を発信すれば、各国の原発政策をミスリードすることになる危険があり、ひいては海外で原発の重大事故を招きかねません。

そこで、以下の事項について、緊急に申し入れるものです。国連・世界防災会議まで日数が少ないので、緊急に検討しご回答いただきますよう要請するものです。

#### 【要請事項】

- 1、国連・世界防災会議のスタディツアー「千年に一度の町づくり～歴史に学んだ女川原発の安全対策～」で東北電力が行う予定の説明が妥当かどうか、至急ご検討ください。
- 2、国連の国際会議では、各国政府の公式報告に対して、NGOがカウンターレポートを発表することが当たり前に行われています。「千年に一度の町づくり～歴史に学んだ女川原発の安全対策～」のスタディツアーに、市民運動の代表を添乗させて、国会事故調報告書や政府事故調報告書の内容を紹介することを中心にカウンターレポートを発表することを認めてください。
- 3、スタディツアー「千年に一度の町づくり～歴史に学んだ女川原発の安全対策～」が企画立案され、提案が採用されるに至った経過を、後日に文書でご説明ください。
- 4、東北電力に対して、「震災に耐えた原発」と女川原発を美化するキャンペーンをやめるよう、要請してください。

私どもの要請の根拠として、**㈱東北電力**に提出する要請書を添付いたします。

日本の歴史改ざん主義に、国際社会の厳しい目が注がれていることにくれぐれもご留意ください。

以上

#### <共同提出団体>

- ・女川原発の再稼働を許さない！2014 みやぎアクション(代表 鈴木宏一)
- ・宮城県護憲平和センター(理事長 清藤恭雄)
- ・原発問題住民運動宮城県連絡センター(共同代表 嶋田一郎 庄司捷彦)
- ・東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター(代表世話人 綱島不二雄)
- ・生活協同組合あいこーづみやぎ(理事長 小野瀬裕義)
- ・子どもたちを放射能汚染から守り、原発から自然エネルギーへの転換をめざす女性ネットワークみやぎ(共同代表 浅野富美枝 小澤かつ 児玉芳江 村口喜代 山田いづみ)
- ・船形山のゾナを守る会(代表世話人 小関俊夫)
- ・女川から未来を考える会(代表 阿部美紀子)
- ・止めようプルサーマル！止めよう核燃料サイクル！女川原発地元連絡会(代表 近藤武文)
- ・女川原発の再稼働を許さない石巻地域の会(代表 庄司捷彦)
- ・原発の危険から住民の生命と財産を守る会(代表 庄司捷彦)
- ・女川原発の廃炉を求める大崎連絡会(代表 佐藤昭一)
- ・放射能から子どもたちを守る栗原ネットワーク(代表 鈴木健三)

#### <連絡先>

〒981-8007

宮城県仙台市泉区虹の丘3-5-13 徳原弘典

電話&FAX 022-373-7000